新潟市代表団 中国北京市・西安市訪問報告

新潟市議会議長　　永井　武弘
同　　議員　　山田　洋子
同　　議員　　佐藤　正人

≪訪問日程≫

平成２９年　１０月１１日（水）新潟駅発　羽田空港経由
北京空港着
１０月１２日（木）景山公園視察
中日友好協会表敬訪問
北京市内視察
日本大使館表敬訪問
新潟市北京事務所開設 10 周年記念式典
１０月１３日（金）北京空港発
西安空港着
西安博物院訪問
西安市長表敬訪問
１０月１４日（土）秦始皇帝陵博物館 等視察
西安空港発
北京空港着
１０月１５日（日）北京空港発
成田空港経由　新潟空港着

今回の訪中の主な目的は、篠田市長を団長とする新潟市代表団の一員として、北京市に設置している「新潟市北京事務所」開設 10 周年の記念式典に出席することと、来年西安博物院所蔵の宝物を借用するので、その確認と協力を西安市に依頼することである。

10 月 12 日（木）

北京市は前日の雨で空気が綺麗になってＰＭの心配も無く、私たちを歓迎してくれた。

中国はすさまじい勢いで変わっている。そのスピードはまさに千里を１日で駆け抜ける勢いであり、北京も西安も同じである。西安はかってシルクロードで栄えた都市として、唐をはじめたくさんの都がおかれた古都だが、今後は一帯一路の重要な拠点として、おそらく今以上に発展していくと思われる。北京も西安も建物が高層になったのは言うに及ばず、道路の整備が進み、今まであった城壁も取り払われ複雑に交差し、たくさんの自動車

がひしめいていた。この通りにかつて自転車の洪水があったなど想像もつかない。この急激な発展が後で大きなゆがみをもたらさなければいいがと思わずにはいられなかった。

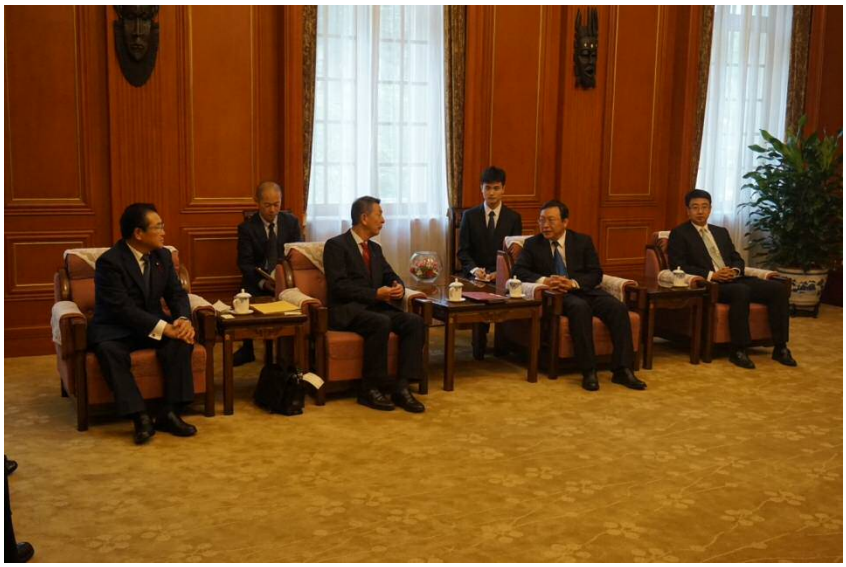
私たちが降り立った北京首都国際空港は、北京から 20 キロほどの位置にあり、年間 9,400 万人以上（羽田 7,900 万人）の乗客が使っているそうだが、2019 年には 1 億人の乗客をさばく「北京大興国際空港」をつくる予定である。これら巨大空港がアジアのハブ空港になっていく可能性が十分にある。日本もこのようなことを見据えた対応を取っていかなければならないと思う。

＜中日友好協会表敬訪問＞

程海波 中日友好協会副秘書長に面会し、心温まる歓迎を受けた。

中日友好協会は国交が正常化する以前、1963 年に中華人民共和国政府が中日の友好交流を推進するためにつくられた。日中の国交正常化が 1972 年なので、その 9 年前である。

新潟の米、トキ、遠藤実などが話題に上がった。米の話題では東日本大震災後、中国が現在も新潟県を含む 10 都県の農産物・農産加工品の輸入を禁止していること、門戸の開けている香港ではクボタが現地で精米して販売していることなどを説明し、新潟の米の輸入禁止が一日も早く解除されるよう大使館からも協力いただけるようお願いした。



（写真）
中日友好協会表敬
右から２人目が
程海波副秘書長

＜日本大使館表敬訪問＞

同日、日本大使館の横井裕大使を表敬訪問した。中国国内にある日本の県・市の事務所が財政事情等の理由で閉鎖されていく中、新潟が頑張っていることを評価していただいた。新潟に総領事館を設置できたのもその力が大きかったとも言っていただいた。ここでも米の輸入に対する話題を出したが、横井大使からも大使館としても問題意識をもって取り組んでいるという言葉を頂いた。

北京では、50 万人もの人が入れるという天安門広場を案内していただいた。訪問時は党大会の前であったため、広場は花で美しく飾られ、多くの中国人の方々がくつろぐ姿が見られた。

＜新潟市北京事務所開設 10 周年記念式典＞

わが新潟市の北京事務所 10 周年記念式典には 150 人もの方々にお集まりいただき、新潟市長の挨拶に次いで横井裕 日本大使、王華 初代新潟総領事、何平　二代目新潟総領事、程海波 中日友好協会副秘書長から心温まるご挨拶をいただいた。

その後、永井武弘議長から 10 周年を迎えた北京事務所の意義ある活動とご苦労に感謝する旨の挨拶とともに乾杯の発声があり、レセプションは和やかに進んだ。新潟領事館発足に駐在した職員の方々からも多数ご出席をいただき、また新潟の関係企業をはじめ、北京で仕事をしておられる企業や関係者等、たいへん多くの方々からお集まりいただいて、式典が盛大に開催されたことを嬉しく思った。

（写真）
北京事務所開設 10 周年
記念レセプションで挨拶
する永井議長

10 月 13 日（金）

＜西安博物院訪問＞

博物院の応接室で、余紅建館長、王鋒鈞副館長から歓迎の挨拶があった。

続いて篠田市長が挨拶し、「西安博物院と新潟市歴史博物館とは平成 19（2007）年 5 月に友好博物館（院）の提携を結んだが、平成 30（2018）年 9 月には歴史博物館において、文物展の開催が予定されているので是非、その際には貴重な所蔵品をお貸し頂きたい」と改めて正式に依頼した。

また永井議長からは前年に日中友好促進新潟市議会議員連盟の代表団が同博物院を訪問した際に温かく対応していただいたことについてお礼を述べた。

西安市で合流した藤井歴史文化課長も同席し、来年の文物展の打合せが行われた。

（王鋒鈞副館長の説明）

西安博物院は 2007 年 5 月開館し、博物院・薦福寺・小雁塔が一体となった施設整備がなされている。薦福寺は唐の時代の則天武后が高宗王の為に建てた寺である。隋、唐の時代には皇帝の兄弟が住んでいた場所だったので、薦福寺の地位は他の寺より高かった。

小雁塔は昔の僧侶がインドへ海を渡って行き修行を終えて持ち帰った宝物が納められている。インド仏教と西安市の歴史文化を物語る博物館である。11 万点の文化財を収蔵していて、すべてが西安市内で発掘されたものである。

（館内見学）
　王鋒鈞副館長が同行し、展示品を説明して頂いた。
　初めに秦時代の城壁に囲まれた首都長安を表した大きな地図の模型について説明があった。東西 1200m、南北 480mを誇り、なぜ長安（西安）が首都に選ばれたのか、それは川が幾つもあり農業が盛んで食料が裕福であったこと、また西市にはシルクロードの商人達が西洋の商品を売って賑わったこと、唐の時代に東市には遣唐使で来た鑑真和上が住んでおり、人口も最大で 100 万人にも達していた中で 5 万人もの外国人が来ていたことを説明して頂き、千年以上もの昔から西安（長安）は国際都市だったことを再認識した。
　前年、議員連盟の訪問後に習近平国家主席が同博物院を訪れたとのことで、館内のいたるところで習主席が見学した床に足跡が表示してあった。また王鋒鈞副館長から直接説明して頂き、展示品のポイント等がよく理解できた。金メダルの様な黄金の塊や手のひらにのる純銀細工の水差しを（手袋はしていたが）直に手で触れさせていただいた。

＜西安市長表敬訪問＞
　面会を予定していた上官吉慶西安市長の都合がつかず、代理で高杲副市長から対応いただいた。

（高杲西安副市長　挨拶）
　「私は元々国家発展委員会に在籍し、日本にも何回も行き、日本の経済三団体とも交流がある。橋本首相にも 1998 年に会っていて、日本と深いつながりがある。」と強調された。近年の西安の発展を紹介され、「西安は日本でも有名な歴史古都である。周の時代より 1 区の首都となってきた。西安は中国大陸の中心にあり、秦嶺山脈は西安の東西の山脈、また黄河の支流である謂河もある。今、西安市では 6 ヶ所の世界遺産があり、そのうちの一つが兵馬俑である。西安は 2013 年に習近平国家主席が一帯一路政策を提唱してからシルクロード特に西に向かって発展し、西安市の域内総生産（ＧＲＰ）は 7,000 億人民元（約 1,000 億ドル）を達成している。現在市内には 63 の大学を有し、学生の数が 120 万人、産業の発展も著しく特に半導体系や宇宙航空機産業が頑張っている。また海外からの観光客も増えている為、咸陽国際空港も新たに整備しており、中国国内でも 8 大空港の一つになっている。ロシアとも鉄道で繋がっていて、貨物列車での貿易が行われているが、昨年は二けたの伸びを記録した。元々西安市は長い歴史を持った都市であり日本とも古くから交流が盛んに行われていたが、近年の日本人観光客数は世界で 4 番目となっている。来年は新潟市との交流が始まって 20 周年を迎えるが、20 年に渡り密接で良好な関係が築かれて来た。これからも、新潟市と末永い友好関係を築いて行きたいと思う。」と高杲西安副市長より大変温かいお言葉を頂いた。

（篠田市長挨拶）
「親愛なる中華人民共和国、西安市の皆様、私たちをこのようにして歓迎して頂き、感謝申し上げる。
　私は 2002 年に新潟市長に就任し、2003 年に初めて中国に来て西安市も訪問させていただき千年の歴史の都に大変感銘した。また西安博物院より協定のお話があり、ありがたく受

けさせて頂いた。また、文物展を開かせて頂き、大変喜んでいる。
本日も西安博物院を訪れたが、王副館長より習近平国家主席も見学したという展示品を丁寧に説明して頂き、大変感謝している。
習近平国家主席が訪れた同時期に私達も訪問できた事と、また歴史と文化を誇る大変すばらしい都市と交流が出来たことを、嬉しく思っている。
新潟は日本の西側に発展する千年以上の歴史を持つ港町で、また、世界一を誇るコシヒカリの最大の産地でもある。
数年前に農業特区に指定され、ローソン、セブンイレブン、ＪＲ東日本、ＪＡと提携してもらい、大変ありがたく思っている。
『東アジア文化都市 2015 新潟』に選定された新潟市では、年間を通じて中国・韓国の開催都市である青島市、清州市との文化交流のほか、多彩な文化イベントに中・韓の文化芸術の要素を組み合わせるなど、事業展開してきた。また 3 都市の文化を発信するとともに、東アジア文化都市の意義や取り組み内容など、知見を共有してきた。
新潟は、日中国交正常化に尽力した田中角栄元総理が生まれた所であり中国とは深い繋がりがある。特に陝西省とは深いつながりを持っており、トキを二羽譲り受け、今では 200 羽が自然繁殖をしていて、日中友好の大切な宝物になっている。そんな中で、来年は新潟開港 150 周年記念事業において西安博物院展を開催して頂くことになり、大変喜んでいる。」と篠田市長は、新潟の紹介とともに感謝の挨拶を述べた。

表敬には、西安市人民代表大会常務委員会の王鳳萍副主任（市議会副議長）らも同席していただき、今回の訪問を機に、新潟と西安の絆をさらに深めていくことを確認した。

（写真）
西安市
高杲副市長（左から５人目）
西安市人民代表大会常務委員会
王鳳萍副主任（左から６人目）
ほか同席者の皆さんと

10 月 14 日（土）
＜秦始皇帝陵博物館視察＞
兵馬俑には、中国三千年の悠久の歴史を改めて感じた。入館ゲートが真新しくなるなど大規模な改装が図られていた。博物館は、何所もかしこも人であふれており、その殆どが中国人観光客であったことが中国経済の発展を物語っていると実感した。

＜その他、西安における所見＞
西安市内には大学が 63 校、地下鉄が 16 路線で総延長は約 100ｋｍあり、3 路線が計画・

工事中で、地上のトロリーバスやマイカーやバイク、自転車の多さにも驚いたが、地下鉄路線がきめ細かく張り巡らされていてもかなりの混雑ぶりで、人口の多さに改めて驚いた。

西安市は 13 区（29 万人～114 万人、平均 69 万人）あり、区で企業誘致や区内総生産が 3 年低迷すると当該区長、副区長はたちまち降格となるため、常に区同士で競い合っているとのことで、経済発展の裏には、すさまじい競争社会の原理が渦巻いているように感じられた。学ぶべきところが多く、大変参考になった。

≪所見≫

この度の中国訪問は大変有意義だった。中国は近代化に力を入れているだけでなく、服装も美しくなった。料理も研究され、健康にも留意したメニューになっていることに感心した。景山公園に行ったとき、公園で人々が集まって体操をしていることは以前にもよく見かけた光景だが、以前より華やいで明るくなっているように感じた。紫禁城を見渡せる小高い丘では、何組かの家族がお年寄りをいたわりながら登っている姿が見られ、さすが孔子の教えが根付いている国だとほほえましく思った。このような状況は日本で見られなくなったのではと日本の現状に不安を覚え、これまで日本人は礼儀正しく〝おもてなしの国〟などと言われてきたが、安閑としていられないとも感じた。

今回の訪問で北京事務所の果たした功績について気づかせていただいたことは大きな収穫である。それと同時に、新潟市も財政状況が大変厳しい状況にあり、市民理解を得るためには、この事務所の果たす役割に大きなミッションを持っていくことが重要だと思う。

西安市の西安博物院と新潟市歴史博物館との記念事業は一つのミッションである。そして新潟市民がこの博物院の文物に接し、歴史を共有できたことは成果である。このミッションをどの様に掘り下げるのか、あるいはどのような視点を持ち発展させるのかをしっかりと指向する必要がある。

これからも、新潟市北京事務所が、新潟市の発展や交流人口の増加、隣国である中国との協力関係の発展に寄与していくことを期待するとともに、東アジアとのしっかりしたパイプを持つことの重要性を認識したうえで、議会としても北京事務所の果たすべき役割と効果を評価検討していかなければならないと考えさせられた訪問であった。